

# 園だより

平成31年2月1日

厳しい寒さは続いていますが2月4日は立春、暦の上では春です。温かな所では、梅が咲いたなど春の訪れを知ると気持ちもウキウキしてきます。春はもうそこまで来ていますね。

インフルエンザが猛威を振るい、東京での発症者は過去最多となり、先月こぶし保育園でもインフルエンザAが流行しました。保育園は集団で生活している為、感染してインフルエンザに罹る可能性は多いです。急な発熱、怠さ、頭痛など異変を感じたら、ご家庭と連絡を取り合いながら対応していきたいと思います。まだ体の小さい子ども達は悪化すると命を失う危険もあります。この1ヵ月、まだ寒い日が続きます。空気も乾燥していますので細かく子どもの様子を観察しながら、重症化しないようにしていきましょう。

今日は、こぶし保育園の節分の会でした。数日前から鬼は来るかな?と不安に感じている子どももいました。邪を払い幸せを呼び込むように「鬼は外! 福は内!」と大きな声で紅白の玉を持ち、鬼めがけて当てました。おやつには幼児クラスの子供達は願いを込めて年の数分豆を食べました。そして玄関には、鬼が葉のとがった柊翹と焼いた鰯の頭を刺した物を飾り、鬼が嫌いな物を飾り、鬼が保育園に入れないようにしました。今年一年「みんな元気に、いっぱい笑い合えるこぶし保育園でありますように」と祈願しました。

早いもので、3月3日はひなまつりです。玄関に新しく購入した雛飾りを飾ります。

そしてあと2ヶ月で今年度も終わります。今月は年度の締めとなる懇談会があります。また、幼児クラスは成長を祝う会という形で子どもの成長した姿を保護者の方々に見て頂きます。各4、5歳児はオペレッタや劇あそびをします。自分の思いを出し、友だちの考えを聞き、どうしたらいいか相談する。そして見通しを持ち、自分たちが中心となり進めていく中でトラブルが起きたとしてもそこでどう折り合いをつけていくかも学んでいき、みんなで助け合い、共同的な学び合いが、そこにはあります。

1年を通して、子どもが育っていく姿を見ながら、その成長に驚きと大きな喜びを感じながら保育しています。保護者の方々とその喜びを共有できる懇談会、成長を祝う会にしていきたいと思います。ご出席のほど、宜しくお願いします。

三井 貴子

## 2月の予定

- (1) 節分の会
- (6) 成長を祝う会
- (9) クラス懇談会
- (13) 字の書き方教室  
(3歳児~5歳児)
- (20) 入園説明会  
0歳児健診
- (21) 誕生日会
- (22) 避難訓練

## 成長を祝う会

### ばなな組 (3歳児)

『大きなかぶ』の劇遊びを行います。

「うんとこしょ・どっこいしょ」の掛け声や次々に動物になりきった友だちを呼ぶ子ども同士の言葉の掛け合いが可愛らしいです。子ども達はその役になりきりどんな言葉が飛び出すか楽しみにして下さい。

### ぶどう組 (4歳児)

『ブレーメンの音楽隊』

歌に合わせて踊り、物語が進行していくオペレッタに挑戦します。振り付けは保育士と子どもが考えました。子ども達なりに役になりきって演じる姿を楽しみにして下さい。

### めろん組 (5歳児)

『太鼓』

4月から経験してきた太鼓もこの祝う会で最後になります。二渡先生から教わってきた体の使い方や声に出してリズムを覚える事等、基本を忘れず繰り返し取り組んできました。友だちと気持ちを合わせて声を出し、力強く叩く姿をご覧ください。

『おおかみと7匹のこやぎ』の劇遊びを行います。

なんの劇をしたいかみんなで考え、せりふや歌詞も各児で考えました。小学校の学芸会(蓮根小学校)に行った時の事を良く覚えているようで参考にしているようです。是非、ご覧ください。

## おかあさん文庫の貸し出し方法について

借りた日・借りた本の名前・借りた人の名前・返却日を用紙に記入して下さい。  
おかあさん文庫の本番号は無くなりました。

## 魚おろし

大きな魚、四角のひらめ、赤い魚、長いコブと海の中の生き物が勢揃いしました。スーパーでは殆んどが切り身になって売られています。様々な色や形の魚を見ながら絵本の「スイミー」を思い出す子ども達でした。

そして幼児クラスの子供達は『魚下し』を見ながら、人間だけでなく、魚にも命があり、虫や草花にも命がある。魚の体の中にも人間と同じように臓器のあり、なぜお腹を蹴ったらいけないのか、なぜ頭が大事なのか知る機会に繋がりました。



## 避難訓練

12月、1月の避難訓練では、弾道ミサイル発射時などに作動する情報伝達訓練(全国瞬時警報システム・ジェイアラート)の訓練を2度に分けて行いました。1度目は保育園の中にいた時、2度目は園外活動時を想定して行いました。

ミサイルが飛んでくるなど、考えたくない事ですが、現実に世界の動きとして起こりうる事です。いざという時にいかにして子どもを守るか大人は冷静に正確かつ迅速な対応がとれるように訓練を行うと同時に子ども達も自分の命は自分で守るという意識を持てるように心掛けていきたいと思っています。